この地球上で、この場所で
こうして出会えた奇跡に感謝
こうしてかかわり合うことが
できる縁を大事にしましょう

平戸市立大島中学校
令和元年度学校だよりＮｏ５
令和元年６月１３日
文責　校長　吉尾直樹

自分の手でよりよい大島中にするために

６月５日　生徒総会

生徒総会が行われ、よりよい大島中にどうすればよいかについて、話し合いを行いました。

生徒会活動は、異学年の生徒同士で協力し、学校生活の充実と向上を図るために、身近な問題を自分たちの手で解決することに取り組みます。

本校では、全校給食をはじめ、日々の生活を全校で過ごす機会が多くあります。そうした中で起こる問題をよくしていくために解決することはとても重要です。

生徒会本部役員を中心に、ふれあい運動会や市中総体球技武道大会の練習も忙しい中、準備を行い、学級でも話し合いを重ねてきました。その成果を発揮し、大島中を大きな視点から見るいい機会になったことと思います。この気持ちをこれからも大切にし、集団がよくなるためには何が必要なのかを考えていきましょう。

「大切な選択」をいつもしている自分に

６月９日　平戸市少年の主張大会

第14回平戸市少年の主張大会が、平戸文化センターで行われ、小学生１５名、中学生９名が意見を発表しました。

本校からは、３年の川久保雅さんが「大切な選択」と題して堂々と意見を述べました。

人前ではなかなか表現することが苦手な自分を変えようと、堂々と意見発表をする先輩の姿を見て専門委員長になることを決断したことや、学級の問題について学級全員で変えようと努力したことなど、自らの選択について力強く発表し、日々の選択の大切さをわかりやすく訴えました。すばらしい発表をありがとう。

本校は県中学校文化活動推進校の指定を受け、全校合唱などの文化活動に取り組んでいます。心を豊かにする芸術鑑賞として、松浦史料博物館で水墨画の学習をしました。この学習を生かした美術科の作品作りに取り組みます。

また、その後、アルカスSASEBOで行われた東京混声合唱団のコンサートを参観しました。日本のトップクラスの歌声に感動するとともに、７月の九州合唱コンクール県予選で歌う予定の「手紙」などを聞きました。あの歌声に近づきたいですね。

「刈り取った収穫で日々を評価するな。自分がどんな種をまいたかで評価するのだ。」

ロバート・ルイス・スティーブンソン（作家／イギリス）

「宝島」や「ジギル博士とハイド氏」で有名なスティーブンソン。彼の作品の中に吉田松陰を描いた「ヨシダ　トラジロー」という本があります。吉田松陰は30年の人生の中で、明治維新につながる種をたくさんまいた人物です。その松陰は、「つらいことや困難なことを恐れている時間はない。先を考えて、今なすべきことをなすのだ」と言います。スティーブンソンも、目の前の成果よりも先につながるものを成し遂げることの大切さを述べています。私たちは、今、自分自身をさまざまな場面で耕し、たくさんの種をまいています。未来に大きな花を咲かせ、実をなすために。